

「魅力ある学校像」のイメージ

手順1 「イメージ出し」【15分】…1～4の「魅力ある学校像」について、具体的な場面や連想されるイメージを出し合い、ふせんに書き、貼り付ける
手順2 「グループ分け」【10分】…それぞれの「魅力ある学校像」に貼り付けたふせんを、おおまかなグループに分ける
手順3 「グループ発表」【各3分】…どのような意見が出たかグループごとに発表を行う

1 こどもたちが学ぶ楽しさや喜びを実感し、
学びを通して豊かな社会性を育む学校

2 教職員がともに高め合い、
こどもたちの日々の成長を喜び合う学校

3 保護者や地域の人たちが信頼を寄せ、
地域から愛される、地域とともに歩む学校

4 安全・安心で、笑顔あふれる学校

他市事例から学ぶ計画策定イメージ

2025年12月18日
ファインコラボレート研究所

基本方針の見える化(具体化)の事例

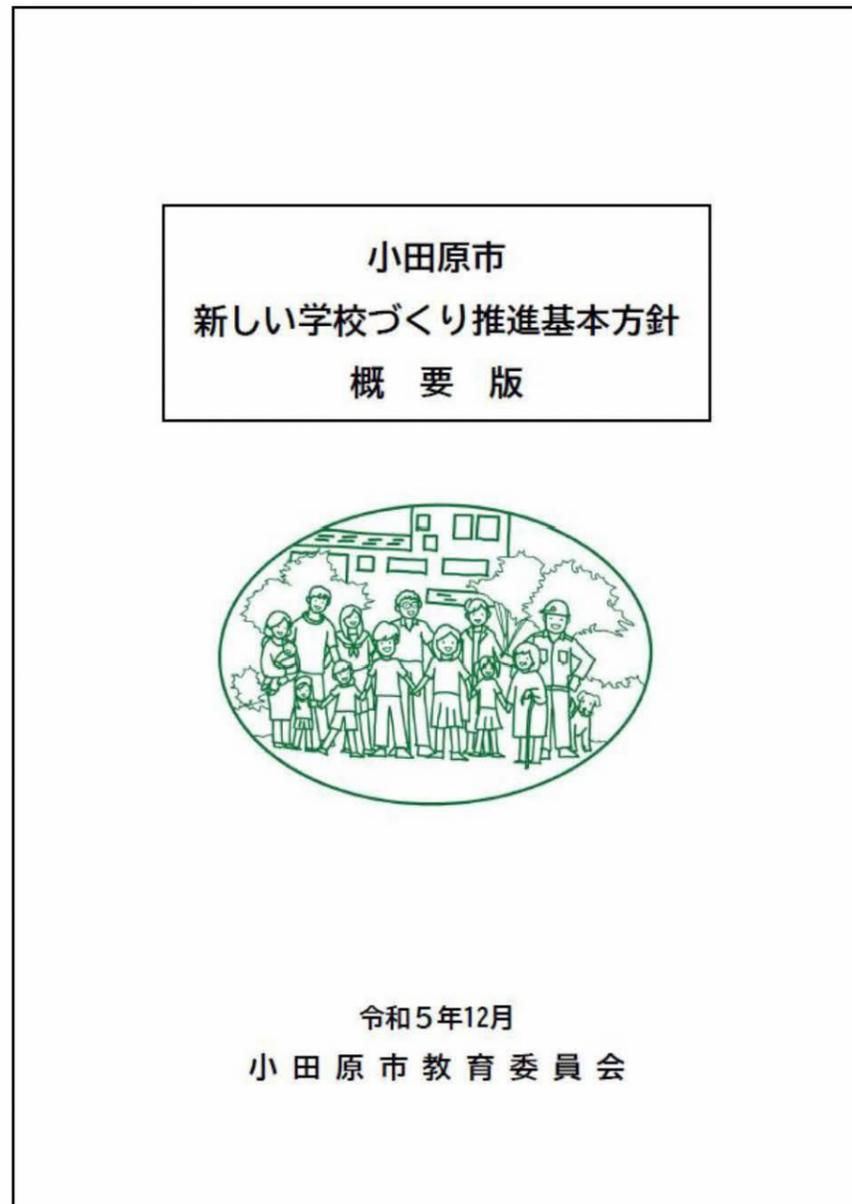
5 基本方針の見える化

基本方針をまとめる過程においては、行政が一方向的に進めるのではなく、これからの学校の在り方に関する学校関係者や保護者、地域の方々の願いや思いを受け止めながら、関係者の理解と協力を得て進めていくことが重要です。

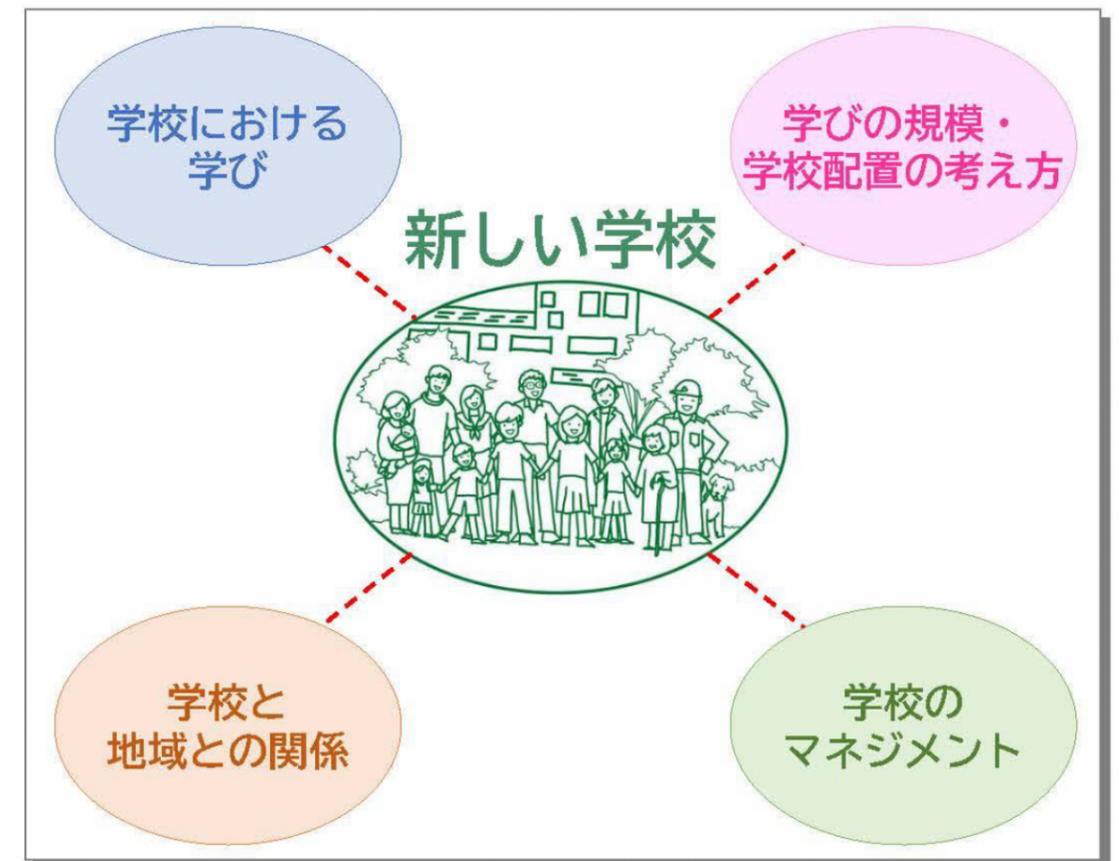
また、基本方針の内容をより多くの学校関係者や保護者、地域の方々に理解していただくには、文書としてまとめるだけでなく、どのような教育環境を目指すのか、という点を明確にして、この取組が、学校の数を見直すことが目的ではなく、「これからの学校像/求められる学習環境」の実現に向けての取組であることを理解していただくことが非常に重要です。そのため、イラストなどを用いて、方針の内容を分かりやすく見える化し、それを例えば「概要版」として説明会などで活用するなど、取組内容を広めていくことが大切です。

基本方針の見える化の事例として、神奈川県小田原市と座間市の事例をご紹介します。小田原市では、地域説明会でこの概要版を活用し、これから小田原市の目指す新しい学校像について説明しています。

例① 「小田原市新しい学校づくり推進基本方針」 令和5年12月



『新しい学校』は、小田原市が目指す「**社会力を育むための学び**」を実現する場所です。



『新しい学校』は、**地域の学びの拠点**です。実現に向けては、各地域で、**地域ごとの『新しい学校』の目指す姿やビジョン**を具体化していきます。

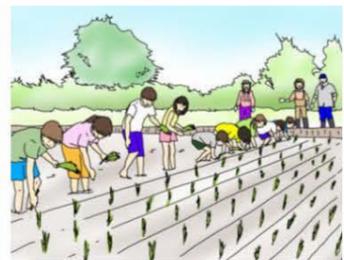
学校における学び

- 「新しい学校」を形にしていくうえで前提となるのが、学校においてどのような学びを実現していくのか、その理念と具体の方向性です。
- 本市がこれまで取り組んできた小田原ならではの学びを継承し、より充実させていくという観点から、人の多様性を認め合う「**インクルーシブ教育**」、地域の多様性を知り、生かしていくための「**地域資源を生かした学び**」、そして「**デジタルを活用した学び**」の3つを、「学校における学び」の柱と位置付け、ハードとソフトの両面で充実させていくことを目指します。

<支援を要する児童生徒数・学級数の推移>

	平成24年度	平成29年度	令和4年度	令和5年度
全児童生徒数	15,153人	13,787人	12,792人	12,571人
支援を要する児童生徒数 <割合>	232人 <1.53%>	359人 <2.60%>	647人 <5.06%>	723人 <5.75%>
支援学級数	72学級	94学級	129学級	145学級

<地域の特色ある学び>



近くの田んぼで稲作体験



片浦レモンの収穫体験



生徒による小田原城ガイド

<ICT活用による学びの充実>



大画面の画像を児童の端末に送ることで詳細まで共有



zoomなどのオンライン会議システムを活用して外部の人に質問をする。



前回の図工の授業で書いた墨絵にコメントしあい、友達作品から学ぶ。

学校における学び

● 全ての子どもが共に学び合う「インクルーシブ教育」の実現

- 国籍や人種、言語、性差、経済状況、宗教、障がいのあるなしにかかわらず、全ての子どもが共に学び合う「インクルーシブ教育」の実現を目指し、それぞれの教育的ニーズに対し最適な教育活動を行うための、多様で柔軟な仕組みづくりを進めます。
- 支援教育の充実に向けては、支援を要する児童生徒数が増加している一方、施設整備や人員の確保等の課題があることから、一部拠点化や通級指導教室の拡大等について検討します。



特別支援学級と通常の学校の教室は仕切りを外せば一体で使うことができ、交流しやすくなっています。



支援が必要な子どもたちも一緒に学習を行っています。

● 地域資源を生かした学びの充実

- 地域資源を活用した小田原版STEAM教育や地域をフィールドにした体験学習等、地域の多様性を最大限活用した学びを、これまで以上に充実させていきます。
- 体験学習や探究的な活動に取り組みやすい学習空間や、学校と地域との協働や共創を促す空間について検討します。



民間企業と連携して、小田原版STEAM教育が全ての中学校で展開されています。



STEAM教育: Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

● 学びの可能性を広げるデジタルの活用

- デジタル技術の進化に対応しながら柔軟かつ積極的に活用し、学びの可能性を広げることで教育の質の向上につなげます。
- ICT活用を含めた多様な学習スタイルに対応できる可変性の高い学習空間など、学校施設整備の具体的な方向性について検討します。



モニターと1人1台の端末を組み合わせ、海外とオンラインでの交流学習などがスムーズに行われています。



図書館は読書・学習・情報のセンターの機能を持ち、効率的なグループ学習などが行えるようになります。